

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	アカデミック・ジャパニーズA						
担当教員	島津 浩美					科目ナンバー	Z31110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	多様な文化や価値観の中で、客観的、相対的、多角的な視点を持って、主体的に学ぶ力を培う						
授業の概要	日本語教育の参照枠B1レベルの学生を対象とするクラスである。自立した言語使用者になるために、それまでに学んだ中級までの日本語の文法や語彙などを使って、講義の主要点を理解できる。身近で個人的な関心がある話題について、単純な方法で結びつけられた脈絡のあるコンテキストを作ることができる。特に、大学の学びに必要な内容をまとめて「書く」技能、「話す（発表）」技能の向上を目指す。						
到達目標	(1) 日本語教育の参照枠B1レベルの日本語力を身につける。【知識理解】 (2) 大学の講義の要点を理解し、まとめることができる。【汎用的技能】 (3) 自分の伝えたいことをパワーポイントでまとめ、発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション&プレースメント・テスト 第2回 1課 習い事は役に立つ？-インタビューを聞く- 第3回 1課 習い事は役に立つ？-経験について詳しく話す- 第4回 2課 漢字・ひらがな・カタカナ、どれで書く？-説明文を読む- 第5回 2課 漢字・ひらがな・カタカナ、どれで書く？-調べたことを紹介する- 第6回 3課 昔話の世界を知ろう-昔話の動画を見る- 第7回 3課 昔話の世界を知ろう-新しい結末を書く- 第8回 4課 旅の計画を立ててみよう-情報を探して読みとる- 第9回 4課 旅の計画を立ててみよう-話し合いをして計画を立てる- 第10回 5課 違いについて考えてみよう-比べて説明する文を書く- 第11回 5課 違いについて考えてみよう-他の人の話の要点をまとめる- 第12回 6課 音楽にはどんな力がある？-ブログ記事を読む- 第13回 6課 音楽にはどんな力がある？-ラジオ番組を聞く- 第14回 7課 日本から世界へ-点字ブロックの動画を見る- 第15回 これまで学んだテーマの中から興味があるものを選び、その結果をまとめて発表する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：わからない単語や文法について調べる。〈学習時間2時間〉 事後学習：学んだ文型などを使った課題や宿題をする。〈学習時間2時間〉						
授業方法	演習・講義：文型の導入を図り、その後、課題やタスクを通じて、文型を定着させる。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、課題や小テスト、試験・レポートなどを総合して評価する。 授業への参加度 30% → 【知識・理解の確認】 【汎用的技能の確認】 【態度・志向性の確認】 課題や小テスト 30% → 【知識・理解の確認】 【汎用的技能の確認】 期末試験（授業中に学んだ文型表現と漢字の確認）および最終発表 40% → 【知識・理解の確認】 【汎用的技能の確認】						
履修上の注意	このクラスは留学生のためのクラスです。 3回以上休むと試験が受けられません。						
教科書	国際基督教大学 教養学部 日本語教育課程(2022)『タスクベースで学ぶ日本語中級1』スリーエーネットワーク (2200円) ISBN978-4-88319-904-4						
参考書	なし						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	アカデミック・ジャパニーズB						
担当教員	島津 浩美					科目ナンバ	Z31120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	多様な文化や価値観の中で、客観的、相対的、多角的な視点を持って、主体的に学び続ける力を培う						
授業の概要	日本語教育の参照枠B2レベルの学生を対象とするクラスである。自立した言語使用者になるために、自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できるようになる。お互いに緊張しないで、熟練した日本語話者とやりとりができる。特に、大学の学びに必要なレポートを「書く」技能、必要な情報を「読む」技能の向上を目指す。						
到達目標	(1) 日本語教育の参照枠B2レベルの日本語力を身につける。【知識理解】 (2) 自分の考えをまとめ、構成されたまとまった文章にできる。【汎用的技能】 (3) 与えられた問題に対して、情報を探し、適切なレポートを作成することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション&プレースメント・テスト 第2回 1課 なぜその言葉？-情報を検索する- 第3回 1課 なぜその言葉？-調べて考えたことを説明する- 第4回 2課 ユニバーサルデザインとは？-動画を見て、要点を聞きとる- 第5回 2課 ユニバーサルデザインとは？-動画の内容について話し合う- 第6回 3課 公共施設を利用している？-情報を読みとる- 第7回 3課 公共施設を利用している？-説明文を読み、構成と内容を理解する- 第8回 4課 違う自分になりたい？-インタビューを聞く- 第9回 4課 違う自分になりたい？-自分の考えを話す- 第10回 5課 災害に対して準備している？-情報を検索する- 第11回 5課 災害に対して準備している？-グループで話し合い、リストを作る- 第12回 6課 地球の環境、大丈夫？-情報を読みとり、要点を理解する- 第13回 6課 地球の環境、大丈夫？-意見文を書く- 第14回 7課 なぜそう見える？どう見せる？-講義の動画を見て、要点を聞きとる- 第15回 これまで学んだテーマの中から興味があるものを選び、その結果をまとめてレポートを作成する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：わからない単語や文法について調べる。〈学習時間2時間〉 事後学習：学んだ文型などを使った課題や宿題をする。〈学習時間2時間〉						
授業方法	演習・講義：文型の導入を図り、その後、課題やタスクを通じて、文型を定着させる。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、課題や小テスト、試験・レポートなどを総合して評価する。 授業への参加度 30% → 【知識・理解の確認】 【汎用的技能の確認】 【態度・志向性の確認】 課題や小テスト 30% → 【知識・理解の確認】 【汎用的技能の確認】 期末試験（授業中に学んだ文型表現と漢字の確認）および最終レポート40% → 【知識・理解の確認】 【汎用的技能の確認】						
履修上の注意	このクラスは留学生のためのクラスです。 3回以上休むと試験が受けられません。						
教科書	国際基督教大学 教養学部 日本語教育課程(2022)『タスクベースで学ぶ日本語中級2』スリーエーネットワーク (2200円) ISBN978-4-88319-910-5						
参考書	なし						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ－	Z31040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取ることができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（１） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（１） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（２） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（２） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（３） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述の的確さなどを含め、総合的に評価する（到達目標 1、2 の確認）。 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度 1、2、3 の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバ－	Z31040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取ることができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（１） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（１） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（２） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（２） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（３） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述の的確さなどを含め、総合的に評価する（到達目標 1、2 の確認）。 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度 1、2、3 の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	尹 寛子					科目ナンバー	Z31040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	他者との円滑な関係を築くためにはどうすれば良いのか、人間関係を構築する際に必要なコミュニケーションにおいて望まれる考え方や行動を学ぶ。						
授業の概要	「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」という観点から「異文化コミュニケーション」に関する研究や理論を紹介し、他者とコミュニケーションを取る場面で基本となる考え方の導入を図る。さらにそれらを実際の状況に当てはめてふさわしい判断をし、行動できる力を養うため、様々な事例を見ながらグループ（ペア）ワークを行う。						
到達目標	1. 異文化コミュニケーション研究における基本的な考え方を理解し、それらを自身の経験や実際の状況に当てはめて考えることができる。（知識・理解） 2. 状況にふさわしい判断と態度でコミュニケーションを取ることができる。（汎用的技能） 3. 他者を多角的な視点から捉え、理解することができる。（態度・志向性）						
授業計画	① 「コミュニケーション」に対するイメージ ② 異文化コミュニケーションの基礎概念（ペアワーク） ③ 自己とアイデンティティ ④ コミュニケーションの阻害要因 ⑤ コミュニケーションの阻害要因を減らすためにできること ⑥ 応用（１） 事例から考える①（グループワーク） ⑦ 文化的価値観と思考パターン（ペアワーク） ⑧ カルチャーショックと適応のプロセス ⑨ メッセージを伝える（１） 言語コミュニケーション（ペアワーク） ⑩ メッセージを伝える（２） 非言語コミュニケーション（グループワーク） ⑪ 「聴く」技術（ペアワーク） ⑫ 対人コミュニケーション ⑬ 応用（２） 事例から考える②（グループワーク） ⑭ 応用（３） 自身の経験を振り返る ⑮ 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習しておく。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で取り上げられたキーワードの解説や要点を確認・整理し、テーマに対する理解と考察を深める。確認テストで理解度を確認する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義の後には適宜ペアワークやグループワークなど、ディスカッションの時間を設け、学んだことを基に自らが考え、行動できる判断力を養えるよう、講義と演習を並行した授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度 30%、小テスト（確認テスト） 10%、期末試験 60% 授業態度：授業態度では、グループ（ペア）ワークへの参加度、各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容・記述の的確さなどを含め、総合的に評価する（到達目標 1、2 の確認）。 期末試験：授業で扱った「異文化コミュニケーション」の考え方に対する理解度、学んだことを実践的に活用できる力について評価する。（到達度 1、2、3 の確認）						
履修上の注意	授業に参加する前に、教科書の当該箇所を読んで予習しておくこと。						
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著、有斐閣選書（2019年）ISBN978-4-641-28133-2						

参考書	授業内で適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文					科目ナンバー	Z32030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいのかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な「私」を目指す。						
到達目標	・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知ることができる〈知識・理解〉 ・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指すことができる〈態度・志向性〉 ・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につけることができる〈汎用的技能〉						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巷で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次回の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、自己評価書40%						
履修上の注意	・話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 ・実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 ・履修者25名以内 ・履修上の注意：グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文					科目ナンバー	Z32030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいのかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な「私」を目指す。						
到達目標	・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知ることができる〈知識・理解〉 ・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指すことができる〈態度・志向性〉 ・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につけることができる〈汎用的技能〉						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巷で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、自己評価書40%						
履修上の注意	・話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 ・実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 ・履修者25名以内 ・履修上の注意：グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列					
科目名	伝わる話しことば					
担当教員	尾形 文				科目ナンバー	Z32030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数 2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。					
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいのかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な「私」を目指す。					
到達目標	・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知ることができる〈知識・理解〉 ・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指すことができる〈態度・志向性〉 ・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につけることができる〈汎用的技能〉					
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巷で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）					
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。					
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、自己評価書40%					
履修上の注意	・話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 ・実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 ・履修者25名以内 ・履修上の注意：グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。					
教科書	なし					
参考書	授業で紹介する。					

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文				科目ナンバー	Z32030	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかを考え、より良い話し方を身につける。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいのかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をする。自分の話し手としての態度や、聴き手としての姿勢がどのように変化したのかは、毎回の授業で行う振り返りで知ることができる。15回の授業で、話し上手な「私」を目指す。						
到達目標	・コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知ることができる〈知識・理解〉 ・現在の自分のコミュニケーション能力を意識し、さらなる向上を目指すことができる〈態度・志向性〉 ・円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につけることができる〈汎用的技能〉						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションの機会について考えよう 第3回 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方を分析する 第5回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第6回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第7回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第8回 外国人とのコミュニケーション 第9回 ちょっといい話（個別発表2） 第10回 正しい日本語とは？（1）巷で耳にする変な日本語 第11回 正しい日本語とは？（2）敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について（個別発表4） 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業の最後に、次の授業で活用する課題を出す。（2時間程度の課題） 授業後学習：①毎回の授業の最後に、その日の授業内容と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出する。（記入時間は10分ほど。）②授業で学んだことを批判的にとらえ、次回までに質問を3つ考えてくる。（2時間程度）						
授業方法	「知識を得る」のではなく「考える」ことを重視するため、グループワークを中心に授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表30%、「振り返りシート」の提出と授業態度30%、自己評価書40%						
履修上の注意	・話すのが苦手な人、ぜひ受講してください。みんなでゆっくり練習しましょう。 ・実践的な授業です。自分で考えて行動する能動的な態度で受講してください。 ・履修者25名以内 ・履修上の注意：グループワークやペアワークを行いますので、欠席の場合は必ず事前に連絡してください。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	島津 浩美					科目ナンバ－	Z32030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」とか、「どうしてわかってくれないんだろう。」と感じたことはないだろうか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのか、自分の気持ちや考えを正確に伝えるためにはどうすればいいのかについて一緒に考えていく。まず、自分の考えや思いを聞き手に伝えるためには、どんなことを意識して話せばいいかを考える。次に、さまざまな場面を想定して、実際にどのように言えばいいのか、それを言われたとき、聞き手としてどう感じるかも考えながら、より良い表現を探っていく。こうした活動を通じて、自分の話し手としての態度や、聞き手としての姿勢について、毎回の授業で振り返ってもらい、リアクションペーパーに記入することで意識してもらう。15回の授業で、聞き上手でもあり話し上手でもある人を育成することを目指す。						
到達目標	(1) コミュニケーションが社会の中でどのように展開されているかを知り、説明できる【知識・理解】 (2) 現在の自分のコミュニケーション能力を意識した上で、円滑なコミュニケーションのために必要な能力（発話・傾聴・柔軟性など）を身につけることができる【汎用的技能】 (3) 実際の場面で、人と協調しながら自分の考えを表現し、コミュニケーションができる【汎用的能】【態度・志向性】						
授業計画	第1回 コミュニケーションとは？ 第2回 自分のコミュニケーションについて考えよう 自己紹介：自己紹介の目的を考えて、自己紹介をする（個別発表1） 第3回 アサーティブコミュニケーション 1 アサーティブコミュニケーションについて知る 第4回 アサーティブコミュニケーション 2 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（伝える） 第5回 アサーティブコミュニケーション 3 アサーティブコミュニケーションを実践しよう（聴く） 第6回 ちょっとした話（個別発表2） 第7回 考えてみよう①「お願いする」 第8回 考えてみよう②「断る」 第9回 考えてみよう③「話を聞いて、会話を続ける」 第10回 考えてみよう④「提案する・説明する」 第11回 不思議な日本語 第12回 敬語のはなし 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば 第15回 授業全体の振り返り： ①これまでの授業のまとめ（質問など） ②自己評価書の作成（毎回記載した「リアクションペーパー」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：毎回の授業の最後に、次回の授業内容に関する課題を出すので、準備してくる。＜2時間＞ 授業後学習：授業で得た知識を実際の自分の言語行動に取り入れ、自分の言語行動の変化やコミュニケーションにおける変化などについてまとめておく。＜2時間＞						
授業方法	講義：コミュニケーションに関する基本的な知識を持ってもらうために、コースの前半は、講義を中心に行う。また、言語について考えてもらうために、後半では簡単な課題を課してから、解説・講義を行う形をとる。ただし、以下の回についてはアクティブラーニングを取り入れる。 アクティブラーニング： ＜第2回・第6回・第13回＞ プレゼンテーション 自分の考えを大勢の前で発表することに慣れるために、テーマに関する発表をしてもらう。 ＜第7～10回＞ グループワーク 課題に関してディスカッションをしながらグループワークをする。グループワークでは、自分の意見を発信する練習と、人の意見を聞く練習も兼ねる。						
評価基準と評価方法	(a) 評価基準と評価方法 ・ 計3回の授業中の発表 30% 発表の内容や態度、聞き手による評価を総合的に評価 到達目標(2)および(3)に関する到達度の確認 ・ 授業内での提出物 30% リアクションペーパー（その日の授業内容についてのコメントや質問および自分についての振り返り）の内容、グループワークの課題シートの的確さ・発表評価シートの内容等を総合的に評価 到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認 ・ 最終回での自己評価書 40% 理解度・具体性を評価 到達目標(2)および(3)に関する到達度の確認 (b) フィードバック リアクションペーパーのコメント・質問等については翌週授業で紹介・解説する。 グループワークシートについてはコメントを記載の上、翌週の授業で返却し、内容については全体で共有する。 発表に関しては、発表評価シートをまとめ、発表者にフィードバックする。 それ以外に行った授業中の課題については、翌週の授業で解説する。						

評価基準と 評価方法	
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失う。 ・「話しことば」を扱うため、授業には能動的に参加すること。 ・グループワークや発表の予定を組むため、都合により欠席する場合は、当日の午前中までに連絡すること。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業で紹介する。

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバー	Z31070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。 具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。 また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な敬語の仕組みを理解し、誰に対しても失礼にならない手紙やメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 何を書くかだけでなく「どのように書くか」を考え、多様な文章において他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (4) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】 (5) 主観と客観を区別し、根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 [PC必携] 第3回 敬語と手紙 [PC必携] 第4回 メール (1) 情報を知らせる [PC必携] 第5回 メール (2) 依頼する [PC必携] 第6回 アカデミックライティングの語彙・表現 [PC必携] 第7回 質疑応答・振り返り・確認テスト (1) 第8回 事実を客観的な表現で述べる [PC必携] 第9回 事実と意見を書き分ける [PC必携] 第10回 レポートの基本的なマナー・引用のルール [PC必携] 第11回 事実に基づいた主張 (1) 読解 [PC必携] 第12回 事実に基づいた主張 (1) 意見を書く [PC必携] 第13回 レポートの構成や章立て [PC必携] 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト (2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。〈2時間〉 ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。〈2時間〉						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1)(3)、授業回に応じて(2)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点や的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト(2回)50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 ・テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバー	Z31070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。 具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。 また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な敬語の仕組みを理解し、誰に対しても失礼にならない手紙やメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 何を書くかだけでなく「どのように書くか」を考え、多様な文章において他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (4) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】 (5) 主観と客観を区別し、根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 [PC必携] 第3回 敬語と手紙 [PC必携] 第4回 メール (1) 情報を知らせる [PC必携] 第5回 メール (2) 依頼する [PC必携] 第6回 アカデミックライティングの語彙・表現 [PC必携] 第7回 質疑応答・振り返り・確認テスト (1) 第8回 事実を客観的な表現で述べる [PC必携] 第9回 事実と意見を書き分ける [PC必携] 第10回 レポートの基本的なマナー・引用のルール [PC必携] 第11回 事実に基づいた主張 (1) 読解 [PC必携] 第12回 事実に基づいた主張 (1) 意見を書く [PC必携] 第13回 レポートの構成や章立て [PC必携] 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト (2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。〈2時間〉 ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。〈2時間〉						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。到達目標の(1) (3)、授業回に応じて(2) (4) (5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点や的確さを評価する。到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト (2回) 50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1) (4) (5)の到達度を確認する。 ・テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜レジュメを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバー	Z31070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどのような文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な敬語の仕組みを理解し、誰に対しても失礼にならない手紙やメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 何を書くかだけでなく「どのように書くか」を考え、多様な文章において他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (4) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】 (5) 主観と客観を区別し、根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 [PC必携] 第3回 敬語と手紙 [PC必携] 第4回 メール（１）情報を知らせる [PC必携] 第5回 メール（２）依頼する [PC必携] 第6回 アカデミックライティングの語彙・表現 [PC必携] 第7回 質疑応答・振り返り・確認テスト（１） 第8回 事実を客観的な表現で述べる [PC必携] 第9回 事実と意見を書き分ける [PC必携] 第10回 レポートの基本的なマナー・引用のルール [PC必携] 第11回 事実に基づいた主張（１）読解 [PC必携] 第12回 事実に基づいた主張（２）意見を書く [PC必携] 第13回 レポートの構成や章立て [PC必携] 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（２） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(3)、授業回に応じて(2)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点や的確さを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（２回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ	Z31070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な敬語の仕組みを理解し、誰に対しても失礼にならない手紙やメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、多様な文章において他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (4) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】 (5) 主観と客観を区別し、根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 [PC必携] 第3回 敬語と手紙 [PC必携] 第4回 メール (1) 情報を知らせる [PC必携] 第5回 メール (2) 依頼する [PC必携] 第6回 アカデミックライティングの語彙・表現 [PC必携] 第7回 質疑応答・振り返り・確認テスト (1) 第8回 事実を客観的な表現で述べる [PC必携] 第9回 事実と意見を書き分ける [PC必携] 第10回 レポートの基本的なマナー・引用のルール [PC必携] 第11回 事実に基づいた主張 (1) 読解 [PC必携] 第12回 事実に基づいた主張 (2) 意見を書く [PC必携] 第13回 レポートの構成や章立て [PC必携] 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト (2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする [PC必携]						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(3)、授業回に応じて(2)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点や的確さを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト (2回) 50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ	Z31070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な敬語の仕組みを理解し、誰に対しても失礼にならない手紙やメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 何を書くかだけでなく「どのように書くか」を考え、多様な文章において他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (4) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】 (5) 主観と客観を区別し、根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 [PC必携] 第3回 敬語と手紙 [PC必携] 第4回 メール (1) 情報を知らせる [PC必携] 第5回 メール (2) 依頼する [PC必携] 第6回 アカデミックライティングの語彙・表現 [PC必携] 第7回 質疑応答・振り返り・確認テスト (1) 第8回 事実を客観的な表現で述べる [PC必携] 第9回 事実と意見を書き分ける [PC必携] 第10回 レポートの基本的なマナー・引用のルール [PC必携] 第11回 事実に基づいた主張 (1) 読解 [PC必携] 第12回 事実に基づいた主張 (2) 意見を書く [PC必携] 第13回 レポートの構成や章立て [PC必携] 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト (2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする [PC必携]						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(3)、授業回に応じて(2)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点や的確さを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト (2回) 50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。1回目のテストでは到達目標の(1)～(4)、2回目のテストでは(1)(4)(5)の到達度を確認する。 (テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。)						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく3回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	適宜プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	伝わる文章						
担当教員	瀬戸 祐規					科目ナンバ－	Z31070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎を身につける。						
授業の概要	基礎的な文章のルールを確認したうえで、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活および社会生活に必要な基本的な知識を学ぶ。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら実際に文章を作成することで、能力の定着、向上を目指す。また、グループやペアになり協同作業で文章を作成したり、互いに書いたものを読み合う機会を設け、「伝わる文章」がどういった文章なのかを自ら判断する目を養う。						
到達目標	(1) 考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な敬語の仕組みを理解し、誰に対しても失礼にならない手紙やメールを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、多様な文章において他者に伝わる文章表現ができる。【汎用的技能】 (4) レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。【汎用的技能】 (5) 主観と客観を区別し、根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 [PC必携] 第3回 敬語と手紙 [PC必携] 第4回 メール（１）情報を知らせる [PC必携] 第5回 メール（２）依頼する [PC必携] 第6回 アカデミックライティングの語彙・表現 [PC必携] 第7回 質疑応答・振り返り・確認テスト（１） 第8回 事実を客観的な表現で述べる [PC必携] 第9回 事実と意見を書き分ける [PC必携] 第10回 レポートの基本的なマナー・引用のルール [PC必携] 第11回 事実に基づいた主張 / （１）読解 [PC必携] 第12回 事実に基づいた主張 / （２）意見を書く [PC必携] 第13回 レポートの構成や章立て [PC必携] 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（２） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする [PC必携]						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： ・授業で扱った練習問題の確認、および持ち帰りの提出課題で技能の定着を図る。持ち帰りの課題はmanabaで提出・フィードバックする場合もある。＜2時間＞ ・構造化されたフォーマルな文章に慣れるために書籍（分野は問わない）を読む。＜2時間＞						
授業方法	講義・演習をおよそ半々の割合で実施する。毎回の授業テーマについて解説した後、個人やグループ、ペアで練習問題に取り組む。練習した成果を互いに読む機会も設ける。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	・提出課題30%：授業内、および持ち帰りの課題により、授業内容の理解度、定着度を評価する。 到達目標の(1)(3)、授業回に応じて(2)(4)(5)の到達度を確認する。 ・授業態度20%：授業内課題やグループワークへの協調性、相互コメントの際の観点的確さを評価する。 到達目標の(1)～(5)の到達度を確認する。 ・テスト（２回）50%：授業で学んだ知識が適切に活用できるかを評価する。１回目のテストでは到達目標の(1)～(3)、２回目のテストでは(1)(3)(4)(5)の到達度を確認する。 （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出した場合に限り、再試験を認めます。）						
履修上の注意	・グループワークや授業中に行う作業に積極的に参加することは必須であり、ただそこにいることを「出席」とはみなさない。 ・正当な理由なく３回欠席した場合、最終評価の対象としない。また、正当な理由のない遅刻は認めない。 ・私語、携帯の使用など、授業を妨げるものに対しては厳しく対処する。						
教科書	別途プリントを配付します。						

参考書	必要に応じて授業時に指示します。
-----	------------------

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習Ⅰ						
担当教員	田中 泰子					科目ナンバー	Z32050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートの実践演習をととして、論理的思考力、コミュニケーション能力を高めることを目的とします。						
授業の概要	この授業ではディベート演習を通じ、問題を多角的な視点でとらえる力、相手の話を要点を抑えて正確に理解する力、また論理的に自身の意見を伝える力を身につけることを目指します。授業では、ディベートの試合の準備のためのグループディスカッションも実施します。						
到達目標	・他者の話を積極的に聞き、正確に理解することができる。【汎用的機能】 ・的確な日本語を用いてコミュニケーションができる。【汎用的機能】 ・テーマについて、客観的事実をもとに論理的に考えることができる。【汎用的機能】 ・考えの異なる相手とも積極的に議論できる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーション／ディベート概要（１）、効果と意義 2. ディベート的考え方（１） 3. ディベート的考え方（２） 4. ディベート的考え方（３） 5. 練習ディベートの準備 6. 練習ディベートの実施（１） 7. 練習ディベートの実施（２） 8. 練習ディベートのふりかえり 9. 立論の組み立て方（１） 10. 立論の組み立て方（２） 11. 反駁の仕方（１） 12. 反駁の仕方（２） 13. 尋問の仕方 14. 「サーブ・レシーブ&アタック」ディベート 15. まとめ、ふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業の内容を理解し、身につけるために資料（教科書）を事前に読んでおいてください。また、ディベートの際には試合前の準備が大切です。テーマに即した資料を事前に集め、読み込んでおいてください。原稿の準備も必要です。（3時間） 授業後学習：授業中に「理解する」ことも大切ですが、実際に「できる」ようになるには毎日の授業や日常生活で実践していただく必要があります。（1時間）						
授業方法	ディベートの練習、試合、ゲーム、ディスカッションなどの演習が中心です。積極的な参加を期待します。各自のふりかえりのために、ディベートやディスカッション内容を録音してもらうことがあります。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施しない。 授業態度【30%】 演習（ディベート、ディスカッションなど）【40%】 提出物（原稿、ディベートメモなど）【30%】						
履修上の注意	演習中心の授業なので、休まず出席してください。 やむを得ず欠席する場合は、事前に連絡してください。 ディベート演習では自分の役割を責任をもって担当してください。						
教科書	『大学生のためのディベート入門』内藤真理子・西村由美編著 ナカニシヤ出版（2018年）2300円＋税						
参考書							

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習Ⅰ						
担当教員	田中 泰子					科目ナンバー	Z32050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートの実践演習をととして、論理的思考力、コミュニケーション能力を高めることを目的とします。						
授業の概要	この授業ではディベート演習を通じ、問題を多角的な視点でとらえる力、相手の話を要点を抑えて正確に理解する力、また論理的に自身の意見を伝える力を身につけることを目指します。授業では、ディベートの試合の準備のためのグループディスカッションも実施します。						
到達目標	・他者の話を積極的に聞き、正確に理解することができる。【汎用的機能】 ・的確な日本語を用いてコミュニケーションができる。【汎用的機能】 ・テーマについて、客観的事実をもとに論理的に考えることができる。【汎用的機能】 ・考えの異なる相手とも積極的に議論できる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーション／ディベート概要（１）、効果と意義 2. ディベート的考え方（１） 3. ディベート的考え方（２） 4. ディベート的考え方（３） 5. 練習ディベートの準備 6. 練習ディベートの実施（１） 7. 練習ディベートの実施（２） 8. 練習ディベートのふりかえり 9. 立論の組み立て方（１） 10. 立論の組み立て方（２） 11. 反駁の仕方（１） 12. 反駁の仕方（２） 13. 尋問の仕方 14. 「サーブ・レシーブ&アタック」ディベート 15. まとめ、ふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業の内容を理解し、身につけるために資料（教科書）を事前に読んでおいてください。また、ディベートの際には試合前の準備が大切です。テーマに即した資料を事前に集め、読み込んでおいてください。原稿の準備も必要です。（3時間） 授業後学習：授業中に「理解する」ことも大切ですが、実際に「できる」ようになるには毎日の授業や日常生活で実践していただく必要があります。（1時間）						
授業方法	ディベートの練習、試合、ゲーム、ディスカッションなどの演習が中心です。積極的な参加を期待します。各自のふりかえりのために、ディベートやディスカッション内容を録音してもらうことがあります。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施しない。 授業態度【30%】 演習（ディベート、ディスカッションなど）【40%】 提出物（原稿、ディベートメモなど）【30%】						
履修上の注意	演習中心の授業なので、休まず出席してください。 やむを得ず欠席する場合は、事前に連絡してください。 ディベート演習では自分の役割を責任をもって担当してください。						
教科書	『大学生のためのディベート入門』内藤真理子・西村由美編著 ナカニシヤ出版（2018年）2300円＋税						
参考書							

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	ディベート演習Ⅱ						
担当教員	田中 泰子					科目ナンバー	Z32060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートの実践演習を通し、論理的思考力、コミュニケーション能力を高めることを目的とします。						
授業の概要	この授業ではディベート演習を通じ、問題を多角的な視点でとらえる力、相手の話を要点を抑えて正確に理解する力、また論理的に自身の意見を伝える力を身につけることを目指します。授業では、ディベートの試合の準備のためのグループディスカッションも実施します。						
到達目標	・他者の話を積極的に聞き、正確に理解することができる。【汎用的機能】 ・的確な日本語を用いてコミュニケーションができる。【汎用的機能】 ・テーマについて、客観的事実をもとに論理的に考えることができる。【汎用的機能】 ・考えの異なる相手とも積極的に議論できる。【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーション／ディベートの概要 2. ディベートの議論の流れ、スピーチの役割 3. 練習ディベートの準備 4. 練習ディベートの実施 5. 練習ディベートから本番ディベートへ 6. 立論の組み立て方 7. 反駁の仕方 8. 尋問の仕方 9. ロジックの検討 10. 第二反駁の仕方 11. わかりやすい話し方 12. 審判の仕方 13. ディベートの試合（1） 14. ディベートの試合（2） 15. まとめ、ふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業の内容を理解し、身につけるために資料（教科書）を事前に読んでおいてください。また、ディベートの際には試合前の準備が大切です。テーマに即した資料を事前に集め、読み込んでおいてください。原稿の準備も必要です。（3時間） 授業後学習：授業中に「理解する」ことも大切ですが、実際に「できる」ようになるには毎日の授業や日常生活で実践していただく必要があります。（1時間）						
授業方法	ディベートの練習、試合、ゲーム、ディスカッションなどの演習が中心です。積極的な参加を期待します。各自のふりかえりのために、ディベートやディスカッション内容を録音してもらうことがあります。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施しない。 授業態度【30%】 演習（ディベート、ディスカッションなど）【40%】 提出物（原稿、ディベートメモなど）【30%】						
履修上の注意	演習中心の授業なので、休まず出席してください。 やむを得ず欠席する場合は、事前に連絡してください。 ディベート演習では自分の役割を責任をもって担当してください。						
教科書	『大学生のためのディベート入門』内藤真理子・西村由美編著 ナカニシヤ出版（2018年）2300円＋税						
参考書	『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』松本茂・河野哲也著 玉川大学出版部（2007年）						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	日本語ⅠA						
担当教員	枝松 奈美					科目ナンバ－	G5101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけ、人とつながる力を養う						
授業の概要	日本語教育の参照枠B 1レベルの学生を対象とするクラスである。自立した言語使用者になるために、中級の文法の知識を確実にし、上級につなげていく。そのために必要な4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く習得することを目指す。特に「文法」と「語彙」の知識を向上させ、ふだん出会うような身近な話題について、日本人と円滑にコミュニケーションができることを目指す。						
到達目標	(1) B 1レベルの文法の知識を理解し、使用することができる。【知識・理解】 (2) 大学生に必要な語彙力・文法力を身につけ、ふだん出会うような身近な話題について円滑にコミュニケーションができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション&プレースメント・テスト 第2回 第1課「新たな出会い」 第3回 第2課「楽しい食事・上手な買い物」 第4回 第3課「時間を生かす」 第5回 第4課「地域を知って工夫する」 第6回 第5課「緊急事態！」 第7回 第6課「地図を広げる」 第8回 中間試験 第9回 第7課「世代を超えた交流」-1 第10回 第7課「世代を超えた交流」-2 第11回 第8課「気持ちを伝える」 第12回 第9課「言葉を楽しむ」 第13回 第10課「日本を旅する」 第14回 期末試験 第15回 期末試験フィードバック、発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：わからない単語や文法について調べる。〈学習時間2時間〉 事後学習：学んだ文型などを使った課題や宿題をやる。〈学習時間2時間〉						
授業方法	演習、講義：文型の導入を図り、その後、ペアワークやロールプレイなどを行い、文型を定着させる。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、課題や小テスト、試験・レポートなどの総合評価 授業への参加度 30% →【知識・理解の確認】【汎用的技能の確認】 課題や小テスト20% →【知識・理解の確認】【汎用的技能の確認】 中間・期末試験あるいはレポート50% →【知識・理解の確認】【汎用的技能の確認】						
履修上の注意	このクラスは留学生のためのクラスです。 3回以上休むと試験が受けられません。						
教科書	『できる日本語 中級』 ISBN 9784757442672						
参考書	『日本語文法ブラッシュアップトレーニング』						

科目区分	コミュニケーション系列						
科目名	日本語IB						
担当教員	枝松 奈美					科目ナンバー	G5101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけ、人とつながる力を養う						
授業の概要	日本語育の参照枠B2レベルの学生を対象とするクラスである。自立した言語使用者になるために、中級の文法の知識を確実にし、上級につなげていく。そのために必要な4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く習得することを目指す。特に「文法」と「語彙」をより積み上げることによって、具体的な話題でも抽象的な話題でも日本人と円滑にコミュニケーションができることを目指す。						
到達目標	(1) B2レベルの文法の知識を理解し、使用することができる。【知識・理解】 (2) 大学生に必要な語彙力・文法力を身につけ、具体的な話題でも抽象的な話題でも円滑にコミュニケーションができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション&プレースメント・テスト 第2回 第11課「ライフスタイル」 第3回 第12課「心と体の健康」 第4回 第13課「トレンドに乗ってつながる」 第5回 第14課「カルチャーショック」 第6回 第15課「情報社会に生きる」 第7回 第16課「学校生活」 第8回 中間試験 第9回 第17課「働くということ」-1 第10回 第17課「働くということ」-2 第11回 第18課「地球に生きる」 第12回 第19課「科学の力」 第13回 第20課「豊かさと幸せ」 第14回 期末試験 第15回 期末試験フィードバック、発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：わからない単語や文法について調べる。〈学習時間2時間〉 事後学習：学んだ文型などを使った課題や宿題をやる。〈学習時間2時間〉						
授業方法	演習、講義：文型の導入を図り、その後、ペアワークやロールプレイなどを行い、文型を定着させる。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、課題や小テスト、試験・レポートなどの総合評価 授業への参加度 30% →【知識・理解の確認】【汎用的技能の確認】 課題や小テスト20% →【知識・理解の確認】【汎用的技能の確認】 中間・期末試験あるいはレポート50% →【知識・理解の確認】【汎用的技能の確認】						
履修上の注意	このクラスは留学生のためのクラスです。 3回以上休むと試験が受けられません。						
教科書	『できる日本語 中級』ISBN 9784757442672						
参考書	『日本語文法ブラッシュアップトレーニング』						